

研究成果情報	園 芸	3	野菜	栽 培
新技術・情報名	なす「T-103」の雨よけ栽培に適する被覆資材		分類	①

1. 成果の内容

1) 技術、情報の内容及び特徴

品質が良い、なす「T-103」の安定的な周年供給を行うために、夏秋期における雨よけ栽培の被覆資材としては、紫外線反射フィルムが収量が多く、品質も優れる。

(1) 雨よけ栽培における被覆資材は、紫外線反射フィルムが最も収量が多く、収穫期間をとおして上物率も安定して高く、また、果実着色への影響もみられず優れる。

(2) 紫外線反射フィルム被覆による気温や照度の変化は、気温は大きな差異はみられないが、照度はビニルフィルムに比べてやや低くなる。

(3) 夏秋なすは、雨よけ栽培を行うことにより、6月から10月まで安定的に出荷することができ、10月から7月まで出荷する促成栽培と合わせ周年生産ができる。

2) 技術・情報の適応効果

促成栽培と雨よけ栽培の産地を合わせることにより高品質なすの周年生産が可能となる。

3) 適用範囲

県下全域

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

(1) 雨水の侵入を防ぐために、排水対策を行う。

(2) 雨よけ施設は、風に弱いので防風対策を行う。

2. 具体的データ

表1 被覆資材と照度（平成2年）

被覆資材	6月25日	7月31日
紫外線反射フィルム	8,900 Lux	84,000 Lux
ビニルフィルム	9,400	74,500
アルミ蒸着ダイオネット	8,100	54,000
ピアレスフィルム	3,500	29,000
露地	12,500	105,000

注) ピアレスフィルムはアルミ蒸着フィルム

表2 被覆資材と時期別10a当たりの総収量と上物収量(kg)（平成2年）

被覆資材	6月		7月		8月		9月		10月		合計	
	収量	上物収量	収量	上物収量	収量	上物収量	収量	上物収量	収量	上物収量	収量	上物収量
紫外線反射フィルム	221	154	1,873	984	4,238	2,538	2,038	838	2,149	882	10,516	5,476
ビニルフィルム	157	102	1,491	846	3,892	1,969	1,586	539	1,895	702	9,022	3,958
アルミ蒸着ダイオネット	189	139	610	256	2,809	1,274	1,180	292	1,604	534	6,391	2,495
ピアレスフィルム	113	45	331	111	2,299	1,042	1,303	391	1,868	888	6,011	2,477

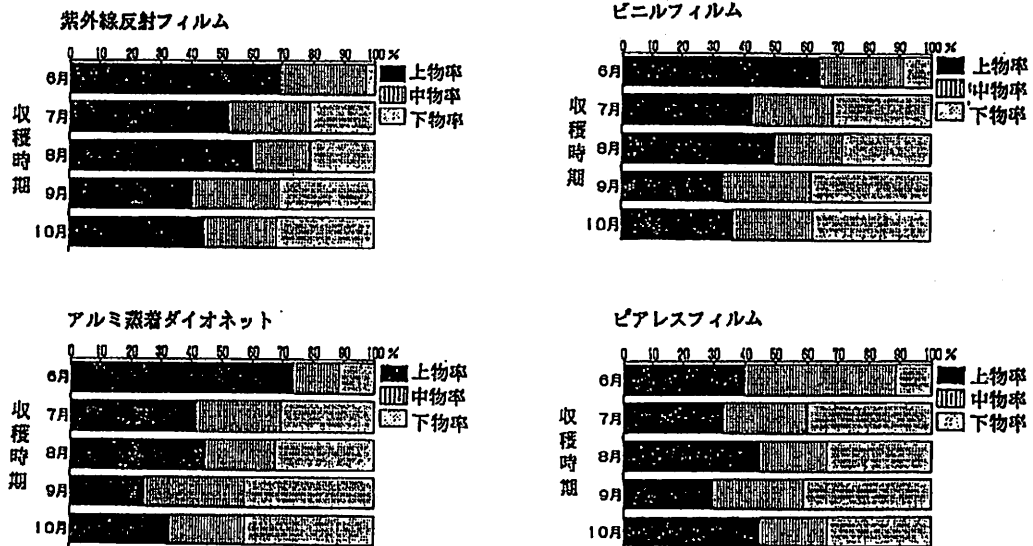


図1 被覆資材と時期別等級発生割合（平成2年）

3. その他特記事項

担当部科室名：園芸研究所 野菜花き部 野菜栽培研究室

研究担当者名：小野剛士、山本幸彦、豆塚茂実

研究課題名：ナスの作型と整枝技術の確立

期間：平成2年～平成3年

予算区分：経常

既発表論文・資料名等：平成3年度 野菜試験研究成績概要集

取りまとめ責任者名：小野剛士